

市民活動センター「元気通信」

生き生きいるま 人・まち・自然

〒358-0003 埼玉県入間市豊岡 4-2-2 TEL/04-2964-2511 FAX/04-2964-2519
Eメール/ shimin@ictv.ne.jp http://iruma-skc.seesaa.net/

平成 27 年度の市民提案型協働事業の 2 事業が終了しました

①金子地区夏休みふれあい巡回ラジオ体操会&ワンポイント講座+ゴミ拾い

/金子根通り健康サポート会



7月18日～27日までの10日間で金子地区10ヶ所を巡回して、毎朝6時30分からのNHKラジオ体操を行いました。その後、いろいろなテーマでワンポイント講座が開催され、参加者は全員、少年時代を思い起こす体育座りで話を聴きました。

延べ参加人数は約690人そのうち6名の方が全10回に参加していました。お孫さんをつれたおじいさんやおばあさん、及び家族連れなど乳児から80歳過ぎの方々が楽しく夏の早朝、健康体操を楽しみながらお互い

のコミュニケーションを深めたことと思われます。体操は久しぶり！ラジオ体操を忘れた！といった声も聞かれましたが、早朝のさわやかな空気の中、参加者全員楽しい時間を過ごしていました。



②いるま子ども会議 /NPO 法人命と子育て応援隊 FAD・子ども会議実行委員会

7月28日(火)、29日(水)の2日間、入間市役所庁舎内会議室で「これからの入間市を考える会議」を行いました。夏休みの特別学習として会議に応募したのは小学4～6年生21名です。

先ず一日目は市役所企画課による「入間市の概況」についての授業の後、グループに分かれて真剣に意見交換。各々の意見をまとめることや、他のアイデアに結びつけるグループワークが行われました。各グループにファシリテータがつきましたが、予想以上の積極的な意見に驚かされました。その後、市長とともに議場を見学。議員席に座ると、さっそく市長に質問する姿がとてもよかったですと思います。さらに、グループごとに分かれて入間市役所内を見学し、感激の様子でした。子どもならではの目線でいろいろなことに気づき、真剣にそれぞれの課の担当者から説明を受けていました。

二日目は、グループごとに入間市をもっと住みやすくする提案を決定。子ども会議の議長が立候補で選ばれ議事進行は立派に行われました。子ども会議では市長を迎えて提案を出し合い、質疑応答も活発に行われました。それぞれの提案は田中市長にしっかりと手渡されました。提案は、「自然をきれいに、バリアフリーのまちづくり、学校にエアコンを！、カブトムシの森づくり、あいさつで明るいまちづくり、新しい観光公園の提案」など、素晴らしいアイデアが続出しました。

詳しい内容は、生涯学習フェスティバルで発表されます。



登録団体のポスター展を行いました

……………7月13日(月)～17日(金)

入間市役所 1 階、市民ギャラリーでイルミン登録団体のポスター展が行われました。参加 23 団体が自分たちの活動を紹介するカラフルなポスターを展示しました。訪れた市民のみなさまからは、「こんなにいろいろな団体があるのを知っておどろいた。」「活動についてよくわかった。」などの感想が寄せられました。受付担当者に熱心に質問する人も多くいました。

今回は、各登録団体の皆さまのほか、事務局担当のまちサポ・サポーター会員が設営、受付に活躍しました。人財塾を終了してまちサポ・サポーター会員となった皆さんの初めての市民活動支援の実践の場になり、いろいろな体験ができました。

ポスター展を通して、多くの市民に各団体の活動を知っていただくことは重要なことです。今後は 9 月 18 日(金)～30 日(水)まで市民活動センター(イルミン)1 階ロビーでポスター展が開催されます。是非、ご覧ください。



地域資源活用術～ないものねだりからあるものさがしへ～第 2 弾

を開催しました。……9月18日(金)



今年の 3 月に行われた「地域資源活用術」講座は、どのようなものが入間の資源として考えられるか、という地域資源を探すはじめの一步を学習した。今回は第 2 弾として、具体的なモデル作成について学習した。講師は前回同様、駿河台大学准教授平井純子先生。場所は入間市市民活動センター活動室 1。参加者は 19 名。

講座はエコツーリズムの説明とその実例、飯能市に於いて古民家を利用しての「サバイバル教室」や「川での遊び体験」などを聞いた後、入間市の資源について参加者がグループに分かれてアイデアを出し合いました。

後半は、講師の課題にしたがって、入間市で楽しく過ごすツアーモデルを考えてみました。

グループ 1：お茶摘み体験と地元の美味しいものを味わう

入間のお茶を茶娘の衣装を着て摘む、アリットでお茶の歴史文化を学び、地元食材を利用したランチ、その後自分で摘んだお茶を持って帰る。

グループ 2：夜のファンタジーツアー

入間市の名所、ジョンソタウンやアウトレットで過ごした後、万燈祭りやロマンチックなファンゴマッシュエ夜のファンタジーに参加する。素敵な出会いがあるかも。

グループ 3：自作の竿で魚を釣ろう！

霞川など入間市の川にある竹で作った自作の竿で釣りを楽しむ。

どうですか？

すぐにでも、できそうなツアーですね。

入間市に何も無い！と言うよりも、私たちの周りのあるものや、いら無いと思っていたものの中から素敵な観光資源が見つかることがこの講座の中で体験することができました。このツアーを実際にやってみたい、との声もあがる楽しい時間となりました。



認知症予防公開講座「これから私たちが準備すること」

が開催されました。……………9月15日(火)



認知症予防講座ファシリテーター「Clao-てっく」をすすめる会が、9月15日(火)イルミンで、「これから私たちが準備すること」をテーマにした公開講座を開催しました。講師は元入間市役所高齢者福祉課の萩原氏でした。

講座の内容は、認知症を予防するうえで重要なことは何かを学び、これを実践する活動において今後どのような介護サービスが必要となるのか、マイナンバー制度の導入による個人情報の管理はどのようにすべきなのか、といった内容でした。

「Clao-てっく」をすすめる会は、活動のなかでどのように自分たちの活動を一般市民につなげていくのかが課題だったようですが、会員同士で意見を出し合い、公開講座が行えたことは会員の自信にもなったようです。また、小規模な講座であったことから、講師に気軽に質問ができるなど、一般参加の市民にも好評でした。会員同士、今後もなお一層社会貢献活動に頑張ろうと誓い合っていました。



活動団体紹介

介護サロン「かたらい」

代表：森本 剛

Eメール：mail@244.jp

介護をしている人のためのサロン活動をしている「かたらい」です。会員は23名、サロンは思いやりのあるやさしいスタッフが対応しています。

定期的開催されるサロンでは、参加した方とおしゃべりしながら楽しい時間を過ごしています。苦労話や困りごと、情報交換をしながら少しでも日頃の疲れを癒していただき、ほっとするひと時が提供できるようになれば、と活動しています。

スタッフは皆、介護者支援ボランティア養成講座を3日間受講しています。また、介護経験者や傾聴ボランティアをやっている人もいて、より多くのサポートができるようにしています。

サロンでは、話をしている人の話を最後までみんなでじっくり聞くこと、質問は話が終わってからすること。サロンで知った個人情報

は外部に無断で公表しないことが約束です。悩みや苦労を相談し合いながら、介護の負担が軽減できるように相互の交流と親睦を深めていきたいですね。

介護者サロンは偶数月は第3水曜日、奇数月は第3木曜日に入間市市民活動センターで午後1時から3時まで開いています。お好きな時間にお越しください。

参加費は100円です。詳しくはお問い合わせください。お待ちしております。



◆Do-you cafe

みなさんこんにちは。「Do ど、you よう、カフェ」のお知らせです。

毎月、第3土曜日、午後1時30分～イルミン1階コミカフェで、市民活動をしている皆さんのためのカフェを開催しています。団体代表の方ばかりでなくどなたでも美味しいお茶を飲みながら楽しいひと時を過ごしてください。

人の輪（和）を拡げ、元気なまちづくりのヒントをつかんでください。活動のジャンルは問いません。これから市民活動をしたい人も大歓迎です。

10月は、17日（土）を予定しています。



《編集後記》

「元気通信」読者のみなさま、こんにちは！お元気ですか。

今年の夏は本当に厳しい暑さが続き、自然災害も多発しました。私たちの住む入間市も被害があった地区がありました。9月に入ると急に気温が下がって雨の日が多く体調不良を訴える人が多いようです。

今回22号では、登録団体の皆さまの活動を多く取材させていただきました。環境、子育て、健康福祉、その他、いろいろな方面で多くの市民のみなさんが活躍されています。

元気通信を発行する私たち「まちづくりサポートネット元気な入間」は、元気な入間、まちづくりをする皆さまの活動を支援する中間支援組織です。

9月4日、金曜日、埼玉市民活動サポートセンターでの研修に参加して来ました。内容は、市民活動をいかに支援するかについて有意義な講義や活動発表がありました。「まちサポって何をする団体ですか?」、私たちも改めてそんな質問に答えていく必要性を感じました。市民活動センター（イルミン）での窓口に関する業務の他に、各団体の活動がより元気になるよう「研修講座」や「情報誌」、「ホームページ」、「団体交流事業」、もしかするとイルミン全体のより良い活用方法なども考えていきたい。やりたいことはいくらかでもあるけれど現実には厳しいところもあります。

研修会では、他の地域の市民活動センターのスタッフも同じような問題を抱えていることが分かりました。それでも前向きに創意工夫をしながら「株式会社組織」にして頑張っている鶴ヶ島の活動センターの発表が印象に残りました。次号は、その取材記事をみなさんにお届けしたいと思います。お楽しみに。

